

令和2年7月1日から通常保育再開に向けた教育・保育施設における

新型コロナウイルス感染症(COVID19)Q&A

令和2年6月30日

佐倉市子育て支援課

 1 子どもも COVID19 に感染するのですか。

 1 現時点では子どもの患者数は大人と比べると少ないですが、感染しやすさは大人と変わらないこともわかってきています。子どもの罹患事例のほとんどが家庭内で保護者から感染していることが多いことから、子どもであっても感染者と密になることで感染することがわかります。

 2 子どもも大人と同じように、感染初期は味覚や嗅覚の異常が出ますか。

 2 大人の事例で報告されているような嗅覚や味覚の異常が子どもで認められるか現時点では不明です。感染しても無症状であることは大人の事例でも報告されていますが、子どもは低年齢であればあるほど、病気の症状を自分で訴えられないため、周りの大人が注意して見守る必要があります。

 3 子どもが罹患したら、重症化しますか。

 3 子どもが罹患した場合、重症化する割合は、大人と比べれば少ないようです。ただし、子どもであっても大人同様に呼吸状態が悪くなることもあります。2歳未満の子どもは比較的症状が重くなる傾向があり注意が必要であると言われています。
COVID19 以外、例えば季節性インフルエンザ等でもわかるように、一般的に小児喘息等の呼吸器系の現病歴がある子どもが呼吸器感染症にかかった場合、重症化する可能性があります。家庭に感染症を持ち込むことがないよう、まずは周囲の大人が感染しないように、引き続き気をつけることが大切です。

 4 COVID19 が収束していないのに、保育所等に通わせるのが怖いです。

 4 感染対策はとても重要なことですが、可能な範囲で通常の日常生活を続けることも、子どもたちの心身の成長や発達には不可欠です。
万が一、家庭内で感染者が出た場合には、そのご家庭のお子さまは濃厚接触者として登園を控えていただくことになります。家庭内での感染事例が多いことから、保育所等の健康チェックカードでは同居する家族の健康状態を項目に追加させて頂いています。

 5 子どもの発症事例は家庭内での感染事例が多いことはわかりませんが、保育所等でも子ども

もどうしは密着して生活しているので保育園からうつるのではないですか。なにより保育士さんからの感染も怖いです。

 **5** 保育所等に係る職員は、お子さまと同じように、日々健康チェックを行っています。発熱のみならず咳・鼻水等の風邪症状がある場合は、一定期間保育所等の勤務を休むよう施設長が指導しています。さらに日常生活においても、新しい生活様式に基づき密を避ける行動をとるなど、感染症対策を行っております。

 **6** 通常保育になったからといって、これまでと全く同じように保育所等に通わせることに抵抗があります。とはいえ、仕事には行かなくてはならず、身が引きちぎられるような思いです。保護者として、なにかできることはありますか。

 **6** 保護者の皆様は、同じお気持ちだとお察しいたします。職員は、保育所等から感染者が出ることがないよう、引き続き感染症対策に努めてまいります。外出制限による、運動量・活動量の減少から子どもの筋力やバランス力の低下が考えられます。臨時休園前と比べて、外遊びをしてもすぐに疲れて立ち止まったり、バランスがとれず転んだりよろけたりしてしまうお子さまが多くみられます。また、久しぶりの保育所等の生活に興奮し気持ちが高揚しすぎて降園時には疲れてしまうお子さまの姿もみられます。梅雨期は気候の変動が著しいため、体調を崩しやすい時期でもあります。「今日は機嫌が悪いなあ」「いつもと違うなあ」などお子さまの体調の変化に気が付かれたときには、可能であれば大事をとって保育園をお休みし、家庭保育をしていただけたらと思います。

 **7** 子どももマスクをしたほうがよいですか。

 **7** マスクをつけることで、感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛沫を直接浴びないことの利点があります。しかし、2歳未満のお子さまのマスク装着については、マスク装着による呼吸のしづらさ等危険性がありますので小児学会でも推奨されていません。また、子どもの運動中のマスクの装着は熱中症の危険性も高まります。子どもの罹患事例の多くが、家庭内で保護者から感染していることから、保護者自身からまず感染しないよう予防行動をとっていただくことが大切です。お迎えの際には、保護者の方が社会から保育園の中にウイルスを持ち込むことがないように、ご自身の健康観察を日々行っていただき、手洗いやアルコール消毒を行ってから園舎に立ち入っていただくことが、お子様1人1人、ひいては園全体を感染症から守ることにつながります。

 **8** マスクをしていたら、熱中症になってしまいませんか。

 **8** マスク着用による身体への影響について科学的な根拠はまだありません。ただ、マスクをつけた人とマスクをつけていない人とで運動負荷をかけて実験をした報告によると、マスクをつけて運動していた人のほうが、心拍数・呼吸数・二酸化炭素量が増加したうえに、マスクをつけた部位の皮膚温度が1.76℃上昇したという報告があります。さらにマスクをしていると、呼気で口腔内の湿気が保たれるため、喉の渴きを感じにくくなるという報告もあり、マスクを着用することによって、熱中症の危険が高まることが考えられます。

例年であれば、春から暑い日が続き体が少しずつ暑さに慣れて、熱中症になりにくい体になっていきますが、今年は外出制限の影響もあったため、大人も子ども暑さへの順応が遅くなっています。子どもも大人も、マスクをしながら生活する初めての夏を迎えますので、熱中症予防には十分注意していく必要があります。